

あしよろ・ハードサポート通信

気温が下がり、朝晩は氷点下になる日が増えました。海産物が旬を迎え、鍋物や熱燗が美味しくなる季節ですね。体調管理に気をつけながら、牛も人間もこれからの厳寒期を乗り切っていきましょう。今回は、分娩後の子宮炎についての話題です。

◆ 分娩後の初回授精

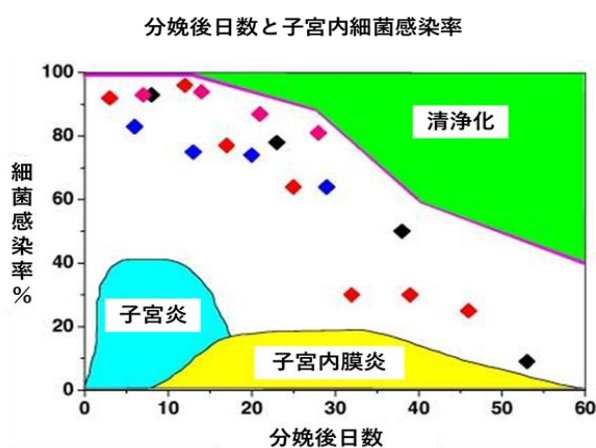
現場を巡回し繁殖の話題に触れると、多くの酪農家さんでは初回授精の目安を分娩後60日～70日としています。繁殖成績を改善するには、初回授精日を早めつつ、受胎率を上げることがポイントです。では実際に、この時期に発情発見し

乳検での全道平均		
繁殖	分娩間隔	429日
	空胎日数	152日
	初回授精 開始日数	88日
2019年11月 牛群検定WebシステムDLより		

授精に持ち込めている牛はどのくらいいるのでしょうか？全道平均の初回授精の開始日数を見てみると88日であり、授精できない牛の割合が多いほど初回授精開始日数が延長し、分娩後の受胎が遅れることで空胎日数が伸びていきます。初回授精を行いたい時期に、子宮の回復が悪く授精できないことが多い場合や、授精は行ったが受胎率が振るわない傾向があるときには、分娩後の子宮炎や子宮内膜炎が原因の可能性があり

◆ 子宮の細菌感染

分娩時は胎盤が敷料などの有機物と接触することにより、子宮内での細菌感染がおこりやすくなります。分娩で胎児と胎膜が排出された後、7～10日間は濁った液状のものが出てきますが、これを悪露（オロ）といいます。子宮炎や子宮内膜炎は、この胎盤や悪露を経由し、子宮内に細菌が取りこまれることで、炎症がおこりやすくなります。右の図では異なる4つの牛群において、分娩後60日間での



子宮内から検出された細菌感染率を（◇）で示しています。分娩直後には4割の牛が子宮炎となり、さらに2割は子宮内膜炎になっているという状況がわかります。

◆ 悪露（オロ）の異常

分娩後2週間を経過しても右記の写真のように白濁して悪臭を放つ悪露を排出する牛は、悪露が子宮内で停滞しており、子宮内環境の清浄化ができてないことを意味します。正常な悪露は黄褐色あるいは赤褐色であり、悪臭は無く分娩後14～18日には消失します。最近では悪露切れのタイミングは早ければ早い方が良いと言われています。



◆ 子宮の回復

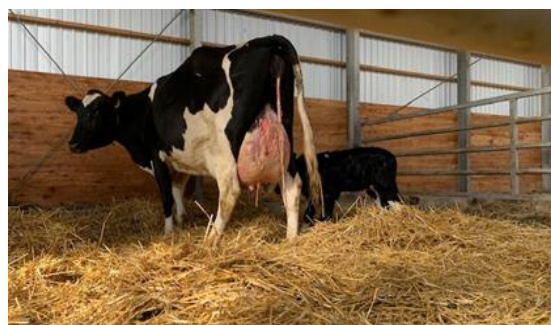
子宮は収縮を行う過程で悪露を排出し、徐々に子宮内が清浄化され、再び妊娠できる状態へと戻っていきます。子宮の大きさは分娩直後には85cm程度になっており、分娩後20日頃までに30cmまで退縮します。分娩後30～40日目になると、妊娠前の大きさに戻ってきますが、産次が進むにつれて子宮修復に要する日数は長くなります。また分娩後、低カルシウム血症を発症した牛では子宮の収縮機能が正常に行われず、回復が遅くなります。



悪露を排出しようと尾を上げる場合がある

◆ 子宮の回復に大切なこと

分娩後、早期に子宮の状態を回復させることが、初回授精を速やかに開始することの第一歩です。そして子宮炎を予防する最も大切なスタートは「分娩環境を清潔に保ち、子宮内に取り込む細菌を極力減らす」ことです。分娩直後の処置方法なども獣医さんと相談しながら、子宮炎、子宮内膜炎の観点から繁殖改善のアプローチを実施してみてもいいでしょうか。（船久保 雄二）



寝藁がたっぷり入った分娩房

・11月7日に組勤と肉牛免税をテーマに「魁！銀河塾」が開催されました。営農部永守課長に講師を行っていただき、和牛繁殖農家さんを含めて12人の若手農家さんにご出席をいただきました。次回は畑関係をテーマに、1月下旬に開催予定です。詳細は後日FAXにてご連絡します。

